

京都帝國大學文學部考古學研究報告

第十一冊

筑前須玖史前遺跡の研究

昭和三年—昭和五年

京都帝國大學

京都帝國大學文學部考古學研究報告

第十一冊

筑前須玖史前遺跡の研究

昭和三年—昭和五年

京都帝國大學

序 言

嚮に本報告第十冊『出雲上代玉作の研究』を出してより、年を閲すること三、暫く中絶の觀ありしは、其間余輩の外遊と、敎室員梅原末治君の海外留學等に因るもの多かりしが、今や再び敎室の體容を整へたるものあり、漸次報告書の刊行を繼續し、以て東亞諸邦の考古學的調査獨り盛んにして、動もすれば本邦に於ける遺跡遺物の研究等閑に附せられんとするの欠陥を補はんことを期す。

本冊は昨昭和四年秋、本敎室員文學部助手島田貞彦君等が、福岡縣筑紫郡須玖に於ける甕棺遺跡の發掘調査の結果を録するものなり。此の調査に際して、不幸余輩自ら實地に臨む機會を失せるも、其の發掘の遺物は悉く之を見ることが得たるのみならず、島田君の論稿は之を校閲して、或は余の意を以て補へる所なきに非ず。又た卷末附する所の英文の梗概に至りては、主ら島田君の原稿に基きて、余輩の自由に爲る所なるを記して、茲に責任の所在を明かにせんと欲す。なほ鑑鏡破片の復原に關しては、梅原末治君の助を得たるものあり。別に同君の鑑鏡に關する研究の論文一篇を附載して、其の詳細を盡せり。

本冊卷末に青柳種信の遺著『筑前國怡土郡三雲村古器圖說』一篇を附載せるは、本冊中屢々之を引用し、一々之を註出するの煩あるのみならず、黒川眞道翁舊藏の原本は大正の大震災に失はれ而かも、其の全文未だ世に刊行せられるものなきを以て、今ま曾て故富岡桃華氏藏模寫せしむる所の一本より抄寫せる本學藏本を寫眞複製して、學者の便に供せんと欲せるなり。

其の體裁原本に比して少しく縮少せる所あれど、なほ以て其の原容を窺ふに足らむ。

須玖の發掘調査に關して中山平次郎博士をはじめ、福岡縣官民諸氏の援助を受け、又た大阪毎日新聞社長本山彦一氏の厚意を忝くせることは、島田君の文中之を詳にしたるものあれば、今ま之を繰返さず。たゞ本冊所掲の寫眞に關しては、鈴木増次郎君の手を煩はし、圖面の作製に就いては、中川貞雄君を煩はしたるもの多きを一言して、前記諸氏等に對すると共に感謝の意を表す。

昭和五年三月

京都帝國大學文學部考古學教室に於いて

濱田耕作

目次

筑前須玖先史時代遺跡の研究

島田貞彦

第一章 序説

一頁

第二章 須玖岡本の遺跡

第一節 遺跡の所在及地形

五

第二節 遺跡の發掘と遺物包含状態

七

一 A 地點の發掘

九

二 B 地點の發掘

一一

三 C 地點の發掘

一七

四 D 地點の調査

一九

第三章 須玖岡本遺跡發掘の遺物

第一節 石器

二三

第二節 土器

二四

第三節 合口甕棺

二九

第四節 銅劍其他の遺物

三四

目次

一

第四章 既發見の關係遺物と遺跡

第一節 須玖岡本及附近出土品 四〇

第二節 他地方甕棺關係遺跡と遺物 四九

第五章 後論

第一節 合口甕棺其の埋葬狀態 五八

第二節 合口甕棺の型式と其起源 六三

第三節 甕棺の年代と其の日本墓制史上に於ける位置 七〇

須玖岡本發見の古鏡に就いて 梅原末治

一序 說 七九

二記 載 八一

三綜括と考說 一〇三

附 録

青柳種信著 筑前國怡土郡三雲村古器圖說 (寫眞凸版)

圖版目次

卷首	須玖岡本B地點發見第一號甕棺內發見銅劍(原色版)	三四—三七	本文 對照頁
第一	同 遺跡附近地形圖(陸地測量部福岡五萬分一及博多二萬分一地形圖)	五一—七	
第二	同 遺跡地展望(島田)	五一—七	
第三	同 遺跡地圖(三宅宗悅、有光教一兩君實測、小野三正君製圖)	九—三二	
第四	同 A地點發掘光景(島田)	九—一	
第五	同 B地點發見第一號第二號甕棺(同上)	一一—三	
第六	(1)同上 (2)同 第一號甕棺內發見銅劍出土狀態(島田寅次郎君)	一一—三、三五—三六	
第七	同 B地點發見第四號甕棺(島田)	一四	
第八	(1)同 B地點發見第一號乃至第五號甕棺 (2)同 第五號甕棺(同上)	一一—一四	
第九	(1)同 B地點發見第八號第九號甕棺 (2)同 第十號甕棺(同上)	一五	
第一〇	(1)同 D地點所在大石 (2)同 B地點發掘光景(同上)	一一—一七、一九—二三	
第一一	(1)同 C地點發見第十一號甕棺(2)同 B地點所在立石(同上)	一七—一八、一二	
第一二	(1)同 A地點發見彌生式土器 (2)同 B地點發見第四號甕棺下甕	二四—二八	
第一三	同 A地點發見彌生式土器	二四—二八	
第一四	同 BC地點發見甕棺復原圖(島田)	二九—三三	
第一五	同 甕棺口緣及胴部突狀帶細部(同上)	二九—三三	

第一六	同 D 地點發見銅劔古鏡片骨製管玉等 (京都帝國大學文學部藏)	三四—三九
第一七	(1) 同 D 地點發見夔鳳鏡 (東京帝室博物館藏) (2) 同上內行花文星雲鏡 (許斐儀七君藏)	八五、一〇九—一一〇
第一八	同上重圈四乳葉文鏡 (其一の復原形) (梅原)	八五—八六
第一九	同上 (其二) (同上)	八五—八六
第二〇	同上方格四乳葉文鏡 (復原形) (同上)	八六—八七
第二一	(1) 同上重圈清白鏡 (其一の復原形) (2) 同上重圈清白鏡 (其一の復原形) (同上)	八七—八八、一〇七—一〇八
第二二	同上內行花文清白鏡 (其一の復原形) (同上)	八九—九〇、一〇七—一〇八
第二三	同上 (其二、其三の復原形) (同上)	八九—九〇、一〇七—一〇八
第二四	(1) 同上重圈清白鏡 (其二の復原形) 片 (2) 同上重圈清白鏡 (其三の復原形) 破片	八七—八九、一〇七—一〇八
第二五	(3) 同上重圈清白鏡 (其二の復原形) (同上)	八七—八九、一〇七—一〇八
第二六	(1) 同上重圈日光鏡 (復原形) (2) (3) 同上內行花文清白鏡 (同) (4) (5) 同上日光鏡 (同)	九〇—九二
第二七	同上內行花文星雲鏡 (其一、其二の復原形) (同上)	九二—九四
第二八	同上 (其三、其四の復原形) (同上)	九二—九四
第二九	同上古鏡片 (一) (復原形及破片)	九五—九七
第三〇	同上古鏡片 (二)	九五—九八
	(1) 同 B 地點發見方格規矩鏡 (朝鮮總督府博物館藏) (2) 同上內行花文日光鏡 (同)	九八—一〇〇、一一三
	(3) 同上內行花文小鏡 (福岡高等學校藏)	九八—一〇〇、一一三

挿圖目次

第一圖	須玖岡本臺地南北線縱斷圖(島田)	六十七頁
第二圖	同 A 地點南北縱斷圖(有光教一君)	一〇
第三圖	同 B 地點發見甕棺分布圖(肥後和男君)	一六一七
第四圖	同 B C 地點發見甕棺埋葬復原圖(肥後君及島田)	一六一七
第五圖	同 C 地點略圖(肥後君)	一八
第六圖	同 D 地點大石略測圖(梅原君)及甕棺位置想像圖(濱田博士)	二一
第七圖	同 發見石器(京都帝國大學文學部等藏)	二四—二五
第八圖	同 發見彌生式土器(中山博士)	二四
第九圖	同 發見彌生式土器口緣部形式圖(島田)	二六
第一〇圖	同 發見高坏圖(同上)	二七
第一一圖	同 A 地點發見彌生式土器形式圖(中川貞雄君)	二八—二九
第一二圖	甕棺合口手法區別圖(島田)	二九
第一三圖	土器製作實景(京都竹内製陶工場)	三二—三三
第一四圖	支那陶車圖(ラウフェル氏著書所載)	三二
第一五圖	印度陶工の車輪形陶車(同上)	三二
第一六圖	須玖岡本第一號甕棺發見銅劍圖(島田)	三四

第一七圖 同 第一號甕棺平面、側面、断面圖(島田) 三六

第一八圖 各種銅鉞銅劍圖(同上) 三八

第一九圖 銅劍柄附着圖(濱田博士) 三八

第二〇圖 (1) 須玖岡本D地點發見銅劍銅鉞(柴田常惠君) (7) 同上(東京帝室博物館藏) (8) 須玖坂本發見狹鋒銅鉞(久我辰實君藏) 四八、四九

第二一圖 (1) 須玖岡本熊野神社藏廣鋒銅鉞(中山博士) (2) 同吉村百太郎氏宅地發見銅鉞鎔筭殘缺(高橋博士) (3) 同吉村良吉氏宅地發見鎔筭殘缺(京都帝國大學文學部藏) 四八、四九

第二二圖 (4) 同熊野神社後方發見鎔筭殘缺(同上) (5) 同辻發見廣鋒銅鉞(島田寅次郎君) 四八、四九

(1) 須玖岡本D地點發見玻璃壁殘缺(後藤守一君) (2) 支那出土玻璃壁(京都帝國大學文學部藏) (3) 須玖岡本D地點發見玻璃勾玉(中山博士藏) (4) 久留米櫛原發見碧玉管玉(京都帝國大學文學部藏) 四八、四九

第二三圖 (1) 筑前三雲發見着柄銅劍(島田寅次郎君) (2) 肥前柏崎發見着柄銅劍(同上) (3) 朝鮮黃海道黑橋面發見銅劍及泉貨(藤田、梅原君) 五〇、五一

第二四圖 『鉞之記』所載瓶之圖(中山博士) 五四

第二五圖 九州北部甕棺及關係遺物發見地略圖(島田) 五九

第二六圖 甕棺各種形式圖(島田) 六三

第二七圖 甕棺 (1) 寺福童(京都帝國大學文學部藏) (2) 船越(同上) 六六

第二八圖 (1) 備中津雲貝塚發見甕棺及人骨(京都帝國大學文學部考古學研究報告第五冊所載) (2) 滿洲老鐵山麓牧羊 六六

第二九圖

城址附近發見甕棺(田澤金吾君) (3) 朝鮮羅州潘南面發見甕棺(谷井濟一君) 六八十六九

(1) 筑前栗山發見甕棺(島田寅次郎君) 及貝輪(京都帝國大學文學部藏) (2) 對馬白岳遺跡(後藤君) 及同所發見狹鋒銅銼(東京帝室博物館藏) (3) 筑後荒木村白口發見甕棺(後藤君) 六八十六九

第三〇圖

(1) 肥前有喜貝塚箱式棺(島田) (2) 豐後田原村灰土山古墳石棺(河野清實君) 七三

第三一圖

本邦各地發見後期甕棺 七四

第三二圖

漢委奴國王印 七八

第三三圖

須玖岡本D地點發見夔鳳鏡拓影(復原前) 八五

第三四圖

同 D地點發見鏡片復原參照支那古鏡鑑(其一) 八五

(1) 支那山東省濟寧州出土重圈四乳葉文鏡(東京帝室博物館藏) (2) 支那出土方格四乳葉文鏡(米國ピッドウエル氏藏) (3) 同上出土重圈精白鏡(守屋孝藏君藏) (4) 大和西京出土內行花文精白鏡(藤井善助君藏) (5) 支那河南省出土內行花文星雲鏡(瑞典ハルビール伯爵夫人藏) (6) 支那出土內行花文星雲鏡(故小川自楊君蒐集品) 九〇—九一

第三五圖

同上(其二) 九〇—九一

(1) 朝鮮大同江面出土內行花文清白鏡(守屋孝藏君) (2) 支那出土重圈內清日光鏡(桑名鐵城君藏) (3) 朝鮮慶尙北道永川出土內行花文日光鏡(朝鮮總督府博物館藏) (4) 支那出土重圈日光鏡(桑名鐵城君藏) (5) 支那河南省出土內行花文日光鏡(ハルビール伯爵夫人藏) (6) 支那出土內行花文日光鏡拓影(羅氏「古鏡圖錄」所載) 九〇—九一

第三六圖

須玖岡本D地點發見星雲鏡圖(八木君「考古精說」所載) 九三

第三七圖

(1) 筑前三雲發見內行花文清白鏡(博多聖福寺藏) (2) 筑前朝倉郡峯發見內行花文

清白鏡(東京帝室博物館藏)

106-109

第三八圖

(1) 支那河南省榮澤縣發見重圈日光鏡(白耳義ブツカン博士藏) (2) 朝鮮鬱陵島發見古

鏡及泉貨(藤田亮策君)

109-110

第三九圖

(1) 朝鮮大同江面發見居攝元年內行花文鏡(守屋孝藏君藏) (2) 支那出土欒氏作牢

夔鳳鏡(富岡益太郎君藏)

109-110

昭和五年八月十五日印刷
昭和五年八月二十日發行

定價八圓

京都帝國大學文學部

版權所有

筑前須玖史前遺跡の研究

編輯代表者

濱田耕作

東京市神田區北甲賀町二十三番地

發行者

尾高豐作

京都市中京區柳馬場三條下ル

印刷者

福井松之助

株式會社似玉堂

發行所

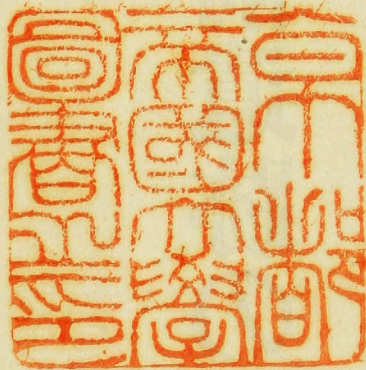
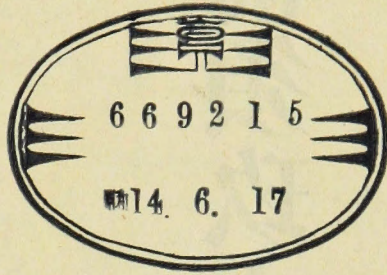
東京市神田區
北甲賀町二十三番地

刀江書院

振替東京(電話)三二七二番
七三一八番(神田)三二八九番

京都帝國大學考古學部研究報告目録

第一册	肥後に於ける裝飾ある古墳及横穴(大正六年發行)絶版	濱田耕作、梅原末治
第二册	河内國府高安及喜志石器時代遺跡發掘報告 河内國府肥後轟等にて發掘せる人骨 (大正七年發行) 絶版	濱田耕作、梅原末治、島田貞彦 鈴木文太郎
第三册	九州に於ける裝飾ある古墳 彌生式土器形式分類聚成圖(大正八年發行) 絶版	濱田耕作、梅原末治、島田貞彦
第四册	河内國府石器時代遺跡第二回發掘報告、河内國府石器時代人骨調査 (大正九年發行) 絶版	濱田耕作、長谷部言人
第五册	備中國淺口郡津雲貝塚發掘報告、肥後國宇土郡轟貝塚發掘報告 (大正九年發行) 絶版	清野謙次、島田貞彦 濱田耕作、榊原政職
第六册	薩摩國出水郡出水町尾崎貝塚發掘調査報告、出水貝塚の貝殻獸骨及び人骨、薩摩國揖宿郡指宿村遺跡調査報告 (大正十年發行) 絶版	濱田耕作、島田貞彦 長谷部言人
第七册	攝津高槻在東氏所藏の切支丹遺物、京都及其附近發見の切支丹墓碑 切支丹教名合字鞍及南蠻人繪鞍に就いて 日本發見銅鍔並銅劍聚成(大正十一年發行、同十五年再刷) 定價金七圓	新村 出、濱田耕作 濱田耕作、梅原末治
第八册	近江國高島郡水尾村の古墳 日本發見金製耳飾刀劍環頭同鹿角製刀裝具聚成(大正十三年發行) 絶版	濱田耕作、梅原末治
第九册	豊後摩屋石佛の研究(大正十四年發行) 絶版	濱田耕作
第十册	出雲上代玉作遺物の研究 日本發見磨製石鏃及石劍聚成(昭和二年發行) 定價金八圓	濱田耕作、島田貞彦、梅原末治



附

錄

青柳種信著『筑前國怡土郡三雲村古器圖說』

青柳種信傳

種信初の名は種鷹、後ち種信と改む。通稱は勝次、柳園と號す。明和三年二月二十日、福岡の地行に生る、幼にして井上周徳に従ひ、其家の學僕と爲り、給事の暇、朝誦夜講、未だ嘗て懈らず、若冠にして家を嗣ぎ、屢々江戸に祗役す、夙に皇朝の學に志し、早く樹立する所あり、最も典故に精しく、考證に長ぜり、祗役の途次、伊勢の松阪に過ぎ、本居宣長に見えて、弟子の禮を執り、爾後益々心を斯學に專にし、疑義あるに會へば、書を飛ばして之を質すこと毎月數回絶ゆることあらず、其の江戸に在るや、野田諸成、加藤千蔭村田春海等を歴訪して益を受け、學識愈々進めり。種信身賤家に生れ、以て自ら進む無し、而も其名早く大家の間に聞ゆ、一年幕府の監察使某筑前に抵る、遠賀の郡宰命を受けて、之を黒崎驛に迎勞せり、時に種信は郡宰に従ひて、途上警衛の列に在り、監察某亦皇朝の學に志ある者、郡宰に問て曰く、聞く貴藩に青柳柳園ありと、今ま何の職に在るや、郡宰汗背以て答ふる無し、唯だいふ其家士籍に列すと、事藩主に聞え後ち擧げられて士班となれり。文化九年并能忠敬の幕命を受けて、筑前を測量するや、之が從屬を命ぜられ、其囑を受けて、「宗像宮略記」「後漢金印考」を作れり、本居宣長の種信に與ふる書中に曰く『貴君御事貴藩を長の御暇御願被成、外へ仕官被成候事は成り不申候や、此節或大名家に皇朝學者を被召抱度由にて吟味有之候に付、心付候故御尋申候』と、種信の不遇と又其の大家の爲に推重せられたるの状と、兩ながら想見す可し、此人精力人に超ゆ、曾て霞關の邸に在りし時、野田諸成等に古書を借り、謄寫すること百餘卷、海路之を郷里に輸りしに、路にして船覆り一卷を存せず、種信再たび諸家に借り、復た前の卷冊を寫し了りしと云、其者す所に「筑前續風土記拾遺」「淳和井學院濫觴」「烈女阿萬佐傳」「防人日記」「官家考」「香椎廟宮記」「三器略說」「宗像宮略記」「後漢金印考」「屠兒考」等あり、其子種正、長野野氏を稱す、亦家學を傳ふ。天保六年十二月六日を以て歿す、年七十、大正五年十一月、從四位を追贈せらる、墓所は改葬して今ま福岡市藤原顯乘寺に在り。(以上主として福本誠著『筑前志』に據る)

REPORTS UPON ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

- Vol. I. Ornamented Tombs in Higo. ... By K. Hamada & S. Umehara.
47 Plates (1917) *Out of Print*
- Vol. II. Excavation of Neolithic Sites at Kô and Kishi, &c. ...
... .. By K. Hamada, S. Umehara, S. Shimada & B. Suzuki.
31 Plates (1918) *Out of Print*
- Vol. III. Ornamented Tombs in Kiûshû.
... .. By K. Hamada, S. Shimada & S. Umehara.
Corpus of the Yayoi-type Pottery.
35 Plates (1918) *Out of Print*
- Vol. IV. Second Excavation at Kô, &c. ... By K. Hamada & K. Hasebe.
24 Plates (1920) *Out of Print*
- Vol. V. Excavation of the Shell-mounds at Tsukumo and at
Todoroki.
... .. By K. Kiyono, M. Sakakibara, S. Shimada & K. Hamada.
53 Plates (1920) *Out of Print*
- Vol. VI. Excavation of the Shell-mound at Idzumi... ..
... .. By K. Hasebe, S. Shimada & K. Hamada.
A Prehistoric Site at Ibusaki. By K. Hamada.
39 Plates (1921) *Out of Print*
- Vol. VII. Christian Relics found at M. Higashi's House near Taka-
tsuki. By I. Shimmura.
Tomb-stones of the Christians in the 17th Century found
near Kyoto... .. By K. Hamada & S. Shimmura.
Two Horse-saddles with Pictures of Portugese Merchants,
&c. By K. Hamada & S. Umehara.
Corpus of the Bronze Implements found in Japan.
1 Coloured & 39 Collotype Plates (1923) *6 Yen*
- Vol. VIII. Ancient Sepulchre at Midzuo, Omi. By K. Hamada & S. Umehara.
Corpus of Gold Ear-pendants, &c. found in Japan.
21 Plates (1923) *Out of Print*
- Vol. IX. Rock-cut Buddhist Images in the Province of Bungo. ...
... .. By K. Hamada.
77 Plates (1925) *Out of Print*
- Vol. X. Studies on the Remains of Ancient Bead-workers in
Idzumo. By K. Hamada, S. Shimada & S. Umehara.
Corpus of the Polished Arrow-heads and Daggers found in Japan.
43 Plates (1927) *8 Yen*

Edited by the ARCHAEOLOGICAL INSTITUTE, KYOTO IMPERIAL UNIVERSITY.

Publishers: The Toko-shoin, 23 Kitakoga-cho, Kanda, Tokyo.

REPORT UPON ARCHÆOLOGICAL RESEARCH
IN THE DEPARTMENT OF LITERATURE, KYOTO IMPERIAL UNIVERSITY
VOLUME XI. 1928—1930

STUDIES ON THE
PREHISTORIC SITE AT OKAMOTO, SUKU
IN THE PROVINCE OF CHIKUZEN

WITH

A SPECIAL STUDY OF THE ANCIENT MIRRORS
FROM THE SITES

APPENDIX

AOYAGI TANENOBU'S ILLUSTRATED DESCRIPTION
OF THE ANCIENT OBJECTS FOUND AT MIKUMO, &c.



THE KYOTO IMPERIAL UNIVERSITY

PUBLISHED
BY
THE TÔKÔ-SHOIN, TOKYO

1930